

4. “三高の男性”に憧れるのは当然です

いい恋愛に“尊敬の気持ち”は欠かせない。

愛というものは、どこかに尊敬の念がないと長続きしません。それがたとえどのような対象に向けられた尊敬であれ、尊敬の念は愛する者にとっては絶対に不可欠なものです。誰もが経験する初恋を考えてみてください。あなたの初恋の相手はどのような人だったのでしょうか。たぶん勉強のできる子、スポーツの得意な子、統率力のある子、やさしく思いやりのある子ではなかったでしょうか。これらの要素は相手の能力や人格への尊敬の始まりと考えられます。大人になってもこうした傾向はほとんど変わりません。女性が好む「三高」にしても、高学歴、高収入が語る能力への尊敬、容貌への憧れが秘められていると考えることができます。「お金に目がくらむ」という言い方がよくされますが、お金持ちになるのも一つの立派な能力であり、その能力への尊敬の念とも言えると思います。それでは、“尊敬”とはいったい何なのでしょう。それはその人の中にひそむ神性部分なのです。マーフィー博士は、どんな人間にも神からの贈り物があり、それは能力となつて備わっていると言います。顔が一人ひとり異なるように、能力の質は違っても、人から尊敬されるだけの能力、つまり神性は誰もが持っているということです。好きだった相手を嫌いになる時のことを考えてみてください。そこには落胆や軽蔑の気持ちがあるはずです。「そんな人だとは思わなかった」というセリフは、相手の中に見いだしていた尊敬部分が偽りであったことを知ったために出てくるのです。ここから好かれる人間になるためのヒントがえられます。好かれないと思うなら、自分にしかない能力を見つけることです。ではどうやって見つければいいのでしょうか。マーフィー博士は自分の潜在意識にこう呼びかけることを勧めています。「私はいま正直で、真摯で、誠実で、勤勉で、平和で、満ち足りた気持ちでいます。私が尊敬するこのような能力は、私の潜在意識の中に沈み込んで行きつつあり、それはやがて私の一部となつて現われます。